

# いっしょに生きるなかま

<b>実践場所</b>	神奈川県	藤沢市立亀井野小学校	<b>実践者</b>	藤原 悟
<b>対象</b>	小学3年生	<b>時間数</b>	5時間	
<b>担当教科</b>	小学校3年	<b>実践教科</b>	総合的な学習の時間、道徳、社会	
<b>ねらい</b>	<p>○異文化(国際)理解          タンザニアの人々の暮らしや文化、国の様子を知り、タンザニアについて興味、関心をもつ。</p> <p>○共生意識          クラスや学校にもいろんな人がいるのと同じように、世界にも様々な人々がいることを知り、これからの時代を協力して生きる、同じ地球にいる仲間としての意識を高める。</p>			
<b>実践内容</b>	<b>回</b>	<b>プログラム</b>		<b>備考</b>
	1	<p>○「タンザニアといえば？」          「アフリカ」、「タンザニア」という国の場所を知り、その国について思いついたことを書き出す。          →私が夏に行くことを伝え、滞在中にハガキを送ることや、帰国後、現地の様子を話すことなど伝える。</p>		<p>【使用したもの】          ・地球儀          ・白地図</p>
	2	<p>○「日本といえば？」          カードに日本をイメージした絵を描き、ローマ字で名前と絵を書く。→日本の文化紹介とともにお土産に。</p>		<p>・折り紙          ・画用紙          ・</p>
	3~4	<p>○「タンザニアって、どんなところ？」          タンザニアで生活風景、食べ物、動物、乗り物、記号など撮影した画像を紹介。          →自分たちの生活と比べ、違うところ、似ているところを話す。</p>		<p>・現地の写真          ・テレビ</p>
	5	<p>○「あなたにとって、大切なことは？ 幸せなときは？」          日頃、自分や友だちが大切に思っていることを書き、意見交換。その延長線として、タンザニアの人たちが大切にしていることをアンケートの結果を紹介。          →同じ時代を生きる「仲間」が、教育を大切にしていることを伝えるとともに、教育を受けられることのありがたさを感じる。</p>		<p>・ワークシート          ・アンケート結果          ・写真          ・</p>
<b>成果</b>	<p>今まで家の外のことすら、あまり知らなかった子どもたちがタンザニアのことを紹介することで、日本を越え、世界に触れる機会が出来、よい経験になったのではと、考える。また、「日本での当たり前のこと」が世界のほとんど国々では、「当たり前ではないこと」を知ること、日本で生まれたことのすばらしさや、自分たちの役割を感じるきっかけをつくれたと思う。</p>			
<b>課題</b>	<p>タンザニアの現地の方々との交流する内容を具体的に、近年中に実施したい。また、授業が断片的になってしまい、継続性のあるものが出来なかった。対象となる子どもたちの発達状況に合わせたテーマを考え、年間を通じて行えるよう準備したい。</p>			
<b>備考</b>	<p>日頃の学校生活の随所で、滞在中に経験したことが、元々行う予定の普段の授業や学校行事に、新しい角度を作ってくれる場面が生まれたように思う。</p>			

## [ 授業実践の詳細 ]

### 1 時限目「タンザニアといえば？」

#### 1 子どもの学習の流れ

- ①自分が知っている国や都市を言う。
- ②子どもたちから出てきた国や都市の位置を地図や地球儀で確かめる。
- ③アフリカ、タンザニアがどこにあるか位置を聞き、正しい場所を地図や地球儀で確かめる。
- ④自分がタンザニアに行くことを伝え、アフリカやタンザニアについてイメージすることを書かせる。
- ⑤実際どんなところか見て、帰国後伝えることを話す。

#### この時限のねらい

自分達が知っている国をクラスで共有し、その位置を確かめていく中で、世界の国々、タンザニアへの興味・関心をより高める。

#### 2 子どもの学習の成果・反応

予想していたよりも外国の国や都市の名前を知っていた。マスメディアの発達により学校で教わっていない多くの情報が子どもに伝わっていることを感じた。

またイメージについては私が予想していた「貧しそう」、「お金がなさそう」といったネガティブな内容はあまり多くなく、「足がはやそう」、「踊りが上手そう」、「動物がたくさんいて楽しそう」などポジティブなものが多かった。

### 2 限目「日本といえば？」

#### 1 子どもの学習の流れ

- ①自分が思い浮かべる日本で有名なものやことを考え、外国(タンザニア)の人に日本を紹介するカードをつくることを話す。
- ②カードには「絵」とそれは何かを名前とともに国語で習ったローマ字を使って書くことを話す。
- ③描いた絵を子ども同士で鑑賞。

#### この時限のねらい

日本の紹介をする絵を考え、自分の住む日本のことや他人(外国人)のことを思い浮かべて描く。

また、タイトルと名前をローマ字で書く練習をするとともに、ローマ字に親しみを持つ。

#### 2 子どもの学習の成果・反応

絵を描くことは子どもたちが好きな表現活動の一つで、タンザニアの人へのお土産になると言うこともあり、はりきって取り組んでいた。習ったローマ字もただ書くだけでなく、相手がもらって喜びそうなものをつくろうと、字体や色など工夫して描いていた。日本といえば、「富士山」、「花火」、「マンガ」、「すし」、「忍者」などの絵を描いていた。

### 3・4 時限目「タンザニアって、どんなところ？」

#### 1 子どもの活動の流れ

- ①動物や街の写真を見せる。
- ②タンザニアクイズ
- ③記号当てクイズ
- ④行く前に聞いた子どもからのタンザニアについてのイメージと比べながら、現地の様子を話す。

#### この時限のねらい

タンザニアや記号についてのクイズ行い、写真など見て現地の様子を知ることで、タンザニアをより身近に感じる。

#### 2 子どもの活動の成果・反応

タンザニアをまず、動物、空港、食べ物、洋服などの画像を紹介。社会と国語で記号についての学習をしていたので、空港や道路などでの記号を見せるととても興味を持ちクイズに取り組んでいた。

### 5 時限目「あなたにとって、大切なことは？ 幸せなときは？」

#### 1 子どもの活動の流れ

- ①日頃、自分が「大切に思っていること」、「幸せに感じること(とき)」を考え、書き出す。
- ②書いたことを班、クラス全体で話し合う。
- ③タンザニアの人たちが大切にしていることをアンケートの結果を紹介。

#### この時限のねらい

自分が「大切に思っていること」、「幸せに感じること(とき)」考え、書き出し、またクラスの仲間同士が共有することでお互いのことを理解する。  
また、タンザニアの人の価値観を知り、受け入れ、国ではなく、同じ人としての理解をする。

#### 2 子どもの活動の成果・反応

子どもからは、「幸せなこと」は、友だちと遊んでいる時、(自分が好きな)スポーツをしている時、家族といる時、ゲームをしている時など。「大切なもの」としては、家族、友だち、命が中心で、他に食事、生きもの、お金など、子どもたちから出た。

自分が「大切に思っていること」、「幸せに感じること(とき)」ことは、日常の学校生活ではあまり表現することが少ないこともあり、より理解が深まったように感じた。同じ時代を生きるタンザニアの人たちが、教育を大切にしていることに驚きがあった。また一方、日本にいる自分たちが普段、勉強ができることや、当たり前のことがあることへのありがたさを感じていた。

## 1 研修を終えて思うこと

先日、ある研修で開発教育について、文科省からアプローチしてもらえたらと提案したところ、「開発教育は上からではなく、現場から行う活動」と話す方がいらした。

私が学生の頃よりアフリカに関心があったのは、日本にとって、アフリカから学ぶべきことは多いと想っていたからだ。それは歳を重ねることにさらにそう思ったし、だから、今回この研修に応募したし、研修を通じてさらにアフリカから学ぶべきことは多いと想うようになった。

より多くの子どもたち、また先生方に伝えていくためには、今の教育現場を考えると、トップダウンが一番早く、効果的だと思う。いろんな教育が現場にはあるが、いろんなアクターから、この開発教育の魅力や効果を伝え、PRする活動を行った方がよいと想う。さらに、具体的に開発教育を根付かせるために、子どもの発達段階に見合った開発教育を企画、整理し、学習指導要領の中に系統立てて取り入れた方がよいと思う。どの年齢でどういう内容が適しているのか、積極的に私は授業の中で実験してみようと思う。なぜなら、子どもの発達段階に合わず、興味関心がないといけない。今、行われている教育内容だったら、国際理解教育の中に、開発教育の内容をさらに取り入れていった方がよいと想う。

また、タンザニア研修から学んだことは多いのだが、それは個人的な経験であり、授業の中で、小学生の実態にあったもので、何をその中から児童に出していくのか。その点が今も考えている課題である。

たとえば、社会で「昔の暮らし」を学ぶ。技術進化とともに現代社会が抱える課題(エコなど)が、昔から学ぶべきことは多い。その昔の暮らしが今もタンザニアなど、世界の各地で今も残る。人間にとって、どういう生活が最も人間らしく、幸せなのか。この辺を自分は追及したい。これから生きる子どもたちが、答えを見つけていく、参考となる手伝いをしたい。それが、私の仕事だと想う。これから世界は、「生きることは難しくなる」と想うからだ。どんなにお金持ちになろうと幸福感を感じられないことほどかわいそうなことはないと思う。世界各地で貧富の格差が急激に広まり、止まることの気配すら感じない時代。ちょっとした疑問をみんなで共有し、行動へと促すような働きかけをしていきたい。

## 2 授業などの様子



～タンザニアの様子を見る児童～



～発問に答えようとする児童たち～



～タンザニアの写真とタンザニア関連グッズ～



～児童が描いたカードを持つ校長先生～

## ○児童からの質問

### ○食について

どんな物を食べているか。ごはんは何を作って、食べているのか。好きな食べ物は。

ごはんは手で食べるのか(食べ方) 有名な食べ物は。給食はあるか。あるならどんなのか。

料理は美味しいか。日本の食べ物を知っているか。きれいなたべものは。大好物は何か。

### ○人について

サッカー、上手か。男女、どちらが多いか(人口は)。足が速いか。バレーボールチームは強い。友達はいるか。

### ○自然について

森はあるか。暑さ(気温)はどれくらいか。何種類の動物がいるか。虫は好きか。

### ○その他

家は多いか。広いか。お店は多いか。普段はどんな生活か。流行っていることは。どんな遊びをしているか。好きな物は何か。話す言葉は何か。

## 3 参考文献・資料

### ○『パモジャ』@JICA タンザニア事務所

<http://www.jica.go.jp/tanzania/office/others/newsletter/index.html>

### ○教師海外研修@地球ひろば

<http://www.jica.go.jp/hiroba/menu/teacher/>

### ○ダルエス便り

<http://jatatours.intafrica.com/index1.html>

### ○JETRO レポート

[http://www.jetro.go.jp/jfile/report/07000914/tz\\_pol\\_eco.pdf#search='%E3%82%BF%E3%83%B3%E3%82%B6%E3%83%8B%E3%82%A2+%E8%A8%80%E8%AA%9E%E6%94%BF%E7%AD%96'](http://www.jetro.go.jp/jfile/report/07000914/tz_pol_eco.pdf#search='%E3%82%BF%E3%83%B3%E3%82%B6%E3%83%8B%E3%82%A2+%E8%A8%80%E8%AA%9E%E6%94%BF%E7%AD%96')

### ○AFRICANEWS

[http://www.africa-news.jp/news\\_RFfcicqSA.html](http://www.africa-news.jp/news_RFfcicqSA.html)

※使用教材については、報告シート参照

以上